

91st Interim Business Report

中間報告書

第 91 期

2025年4月1日～2025年9月30日





トップメッセージ



ご挨拶

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第91期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は2023年度からスタートした「中期経営計画2025」の最終年度の折り返し地点を迎えています。“Powering Passion”「その情熱を力に。」をスローガンに掲げ、全社員一丸となって中期経営計画の目標達成に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 彦坂典男

“Powering Passion” 『その情熱を力に。』

当中間連結会計期間における受注はどのような状況でしたか。

当中間連結会計期間の世界経済は、米国による関税政策の動向やウクライナ情勢の長期化と中東情勢の緊迫化などの影響を受け、先行き不透明な状況が続きました。わが国経済は、米国の関税政策の影響で企業収益の改善に足踏みがみられたものの、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は持ち直しの動きが見られ、設備投資も緩やかな増加傾向にあることなどから、景気は緩やかに回復しました。

このような中で、当社グループの当中間連結会計期間における受注高は、国内民需部門が増加したものの官需部門と海外部門で減少したことから、前年同期比84.6%の114億77百万円となりました。

業績はいかがでしたか。

売上高については、豊富な受注残の当中間連結会計期間における売上が増加し、前年同期比123.0%の110億52百万円となりました。利益については、売上高の増加などにより、営業利益5億58百万円（前年同期営業損失2億87百万円）、経常利益6億33百万円（前年同期経常損失1億90百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益4億47百万円（前年同期親会社株主に帰属する中間純損失1億29百万円）となりました。

当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節的変動があります。

通期の業績については、売上高280億円、営業利益30億円、経常利益31億円、親会社株主に帰属する当期純利益22億円を見込んでいます。

また当社グループは、従来から安定的な経営成績の確保と経営基盤の維持増強に努めています。株主の皆様

に安定的な配当をすることを基本に、当社グループで持つ経営資源を効果的に活用することとしております。これにより、一層収益力の向上と経営基盤の安定・強化並びに配当性向の向上に努めております。この方針を踏まえ、今年度の中間配当につきましては、1株につき80円（創業115周年記念配当20円を含む。）とさせていただきます。

今後の取り組みについてはどのようなものを考えていますか。

中期経営計画の目標達成に向け、以下の具体的な施策を推進します。

官需部門は、コア事業の安定収益体制化に向け、社会に貢献する当社の競争優位製品の提案を通じて、大型案件の受注獲得に注力してまいります。併せて、P&M

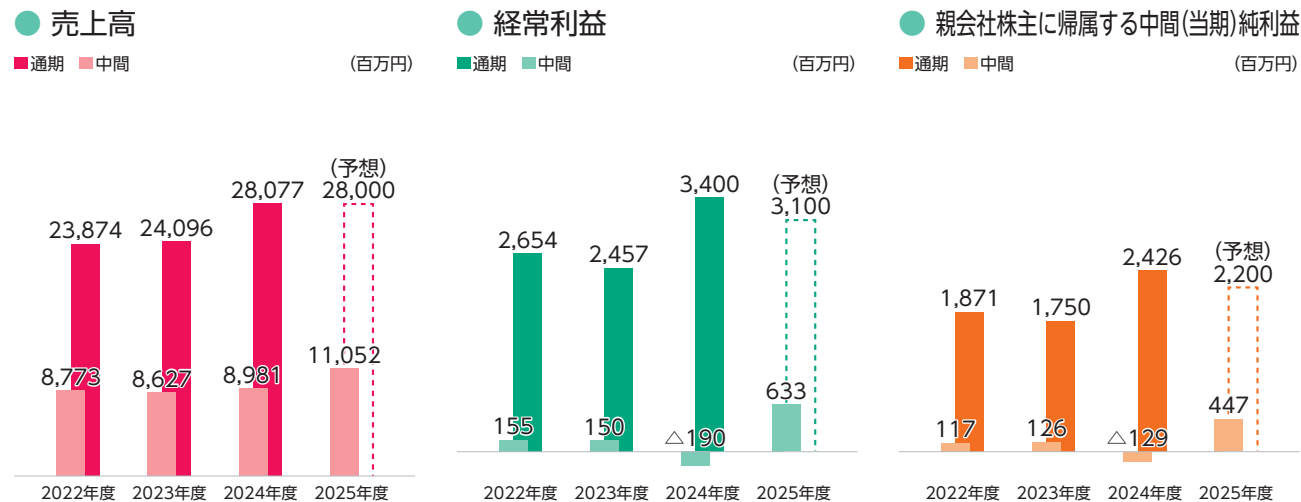
ビジネス（パーツ供給&メンテナンス）の拡大により、収益基盤の強化を図ってまいります。

国内民需部門は、脱炭素社会の実現や環境負荷の低減に貢献できる環境配慮型製品の提案を推進し、お客様の課題解決に寄与するソリューション営業を積極的に展開してまいります。特に、水処理設備用エネルギー回収装置「DeROs-E™」は、純水製造装置や下水処理設備などRO膜を活用する幅広い用途への拡販に注力してまいります。

海外部門は、生産能力を強化したDMWインド社をグローバル拠点と位置づけ、人材育成と製品品質のさらなる向上を図り、グローバル事業領域の拡大を進めてまいります。

2025年12月

連結財務ハイライト



北新地排水機場ポンプ設備工事の工場試運転完了

2025年10月17日に、農林水産省九州農政局北新地排水機場向け納入予定の横軸斜流ポンプ3台(口径2,000mm/出力628kW/台)の工場試運転を完了しました。

当該機場が建設される八代平野地区は、熊本県の中央部に位置する八代市及び八代郡氷川町の約5,500haの農業地帯です。本地区の農業水利施設は、国営八代平野土地改良事業(1964年度～1973年度)及び関連する県営土地改良事業などにより整備され、湛水被害の軽減及び農業用水の安定供給に寄与しましたが、近年の降雨量の増加と土地利用の変化に伴う排水量の増加により、湛水被害が生じています。また、経年的な施設の劣化により排水機能に支障をきたし、維持管理に多大な費用と労力を要しています。

当社が受注した本工事は、老朽化した既設排水機場の隣に新たな排水機場を建設し、排水能力を向上させることで、本地区における湛水被害の軽減を図るものです。現在、2026年10月の工事完成を目指しており、鋭意機器の製作並びに現地据付工事を進めております。

今後当社のポンプ設備が豪雨や台風による湛水被害から農地を守り、農業生産性の維持向上及び農業経営の安定に寄与することが期待されています。



北新地排水機場ポンプ工場性能試験中



北新地排水機場 工事中現場の様子(左奥の建物が既設排水機場)

三島事業所 厚生棟に太陽光発電設備を設置

サステナビリティ経営におけるマテリアリティ「事業活動に伴う環境負荷の低減」の解決に向け、三島事業所厚生棟に太陽光発電設備を設置いたしました。本設備の稼働により、年間約16トンの温室効果ガス排出が削減できます。また、蓄電設備も併設しており、災害時には非常用電源として活用いたします。

なお、厚生棟はZEB Ready*の認証を取得しており、今回の太陽光発電設備の導入により、さらに環境に配慮した施設へと進化いたしました。

※ZEB Readyとは、『ZEB(Net Zero Energy Buildingの略称。)]を見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物のことです。



パートナー企業との研修会実施

三島事業所では、毎年8月にパートナー企業を対象とした工場研修会を継続して開催しており、今年で25回目となります。

本研修には、全国のパートナー企業より若手技術者を中心にご参加いただき、ポンプ・送風機の基礎知識の習得や品質管理に関する講義、組立実習を通じて、当社製品に関する技術・技能の向上を図っております。

今後も本研修を通じてパートナー企業との連携を強化し、現地施工における安全性及び品質のさらなる向上に努めてまいります。



地域社会貢献への取り組み

三島事業所では、2025年8月1日に地域の皆様との交流の場として「第37回電業社夏まつり」を開催いたしました。

会場内ではキッチンカーによる出店のほか、近隣企業の皆様によるお菓子や竹細工の販売など、地域の皆様にご協力いただきながら運営することができました。

近隣3町内の子供会による「しゃぎり(お囃子)」の競演やパートナー契約を締結しているプロサッカーチーム「アスクラロ沼津」によるトークショー、お笑い芸人をゲストとして招いたライブ等が行われ、会場は盛況となりました。

今後も地域の皆様との積極的な交流を通じて、地域社会への貢献に努めてまいります。



鏡開きの様子



お笑いライブの様子(ダンディ坂野さん、ペナルティさん)

サステナビリティレポート2025を発行

「サステナビリティレポート2025」を発行し、ホームページで公開いたしました。

当社では、「水と空気を通じて豊かな未来社会を創造する」というパーパス(存在意義)に基づき、5つのマテリアリティ(重要課題)の解決に向けてサステナビリティ活動を推進しています。

下記のリンク先からご覧いただけますので、是非ご一読ください。

サステナビリティレポート2025

<https://www.dmw.co.jp/csr/sustainability-report.html>



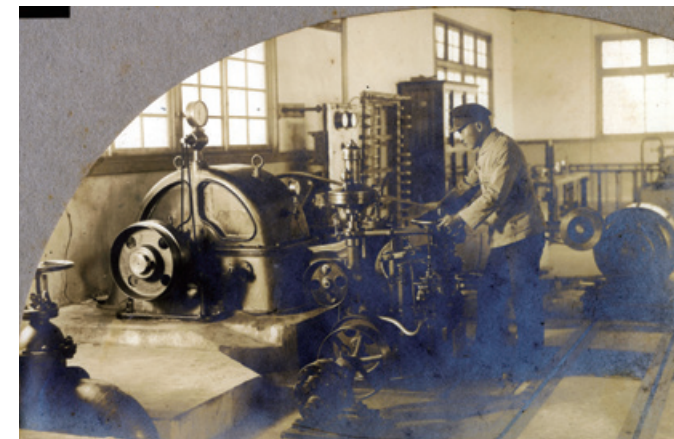
電業社の歴史紹介 ——— ペルトン水車

当社の前身である株式会社電業社水車製造所が製造した「ペルトン水車」が、広島大学工学部に長年にわたって保存・展示されてきました。この水車は、1921年に旧・広島高等工業学校(現・広島大学)から受注し製作・設置されたもので、故・高井英明広島大学名誉教授の設計によるものです。

同水車は、水力発電実習用として1945年まで使用されていましたが、原爆被災により使用されなくなりました。しかし、被爆後から現在まで残る貴重な「工学遺産」として広島大学工学部棟で展示されていました。

2025年11月に同水車を広島大学より引き取り、三島事業所において展示する運びとなりました。同水車は、当社の技術の源流を物語る貴重な歴史資料です。

- 有効落差：30.48m
- 最大流量：48.14 ℓ/s
- 最大出力：11.2kW
- 回転速度：270min⁻¹



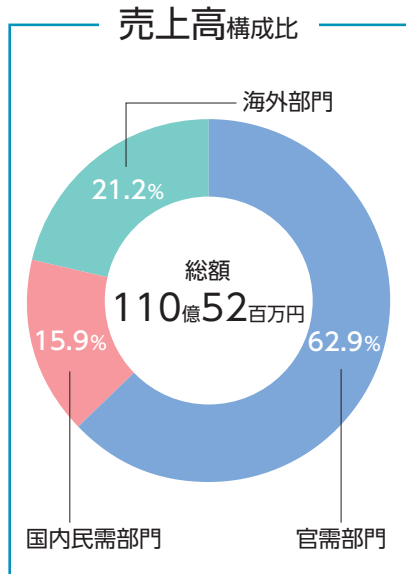
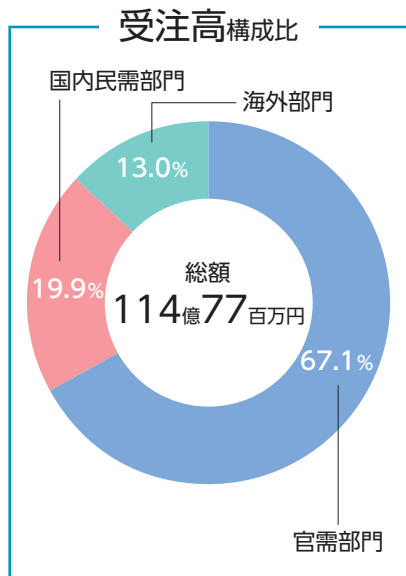
当時の水力発電実習時の様子
提供元：広島平和資料館、提供者：益田崇教氏



広島大学工学部棟に展示されていた様子



部門別営業の状況 (2025年度中間)



官需部門

受注高 **77億6**百万円
(前年同期比78.2%)

売上高 **69億55**百万円
(前年同期比131.5%)



●雨水排水用ポンプ

国内民需部門

受注高 **22億78**百万円
(前年同期比140.9%)

売上高 **17億55**百万円
(前年同期比137.2%)

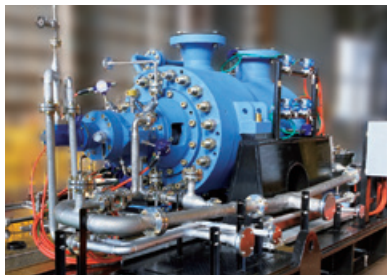


●発電所向け送風機

海外部門

受注高 **14億91**百万円
(前年同期比71.1%)

売上高 **23億40**百万円
(前年同期比97.1%)



●石油精製プラント向けポンプ



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2025年9月30日現在	前期末 2025年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	25,166	30,815
固定資産	10,378	9,653
有形固定資産	4,475	4,529
無形固定資産	308	344
投資その他の資産	5,594	4,779
資産合計	35,544	40,469
(負債の部)		
流動負債	5,896	11,700
固定負債	1,287	938
負債合計	7,184	12,639
(純資産の部)		
株主資本	26,041	26,062
資本金	810	810
資本剰余金	132	127
利益剰余金	26,471	26,500
自己株式	△1,372	△1,375
その他の包括利益累計額	2,318	1,767
純資産合計	28,360	27,830
負債純資産合計	35,544	40,469

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2025年4月1日から 2025年9月30日まで	前中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで
売上高	11,052	8,981
売上原価	8,585	7,219
売上総利益	2,466	1,762
販売費及び一般管理費	1,908	2,049
営業利益又は営業損失(△)	558	△287
営業外収益	172	123
営業外費用	96	25
経常利益又は経常損失(△)	633	△190
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	633	△190
法人税等	185	△60
中間純利益又は中間純損失(△)	447	△129
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	447	△129

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2025年4月1日から 2025年9月30日まで	前中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,011	4,649
投資活動によるキャッシュ・フロー	△204	△199
財務活動によるキャッシュ・フロー	△490	△329
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	5
現金及び現金同等物の増減額	1,305	4,126
現金及び現金同等物の期首残高	6,380	6,071
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,685	10,197

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

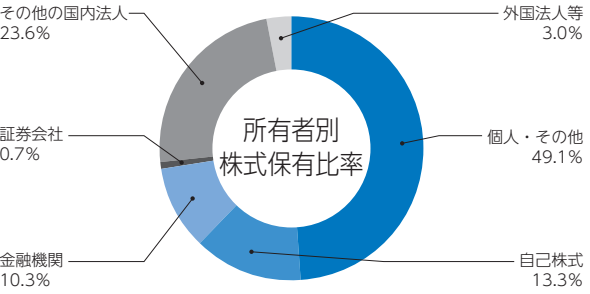


株式の状況 (2025年9月30日現在)

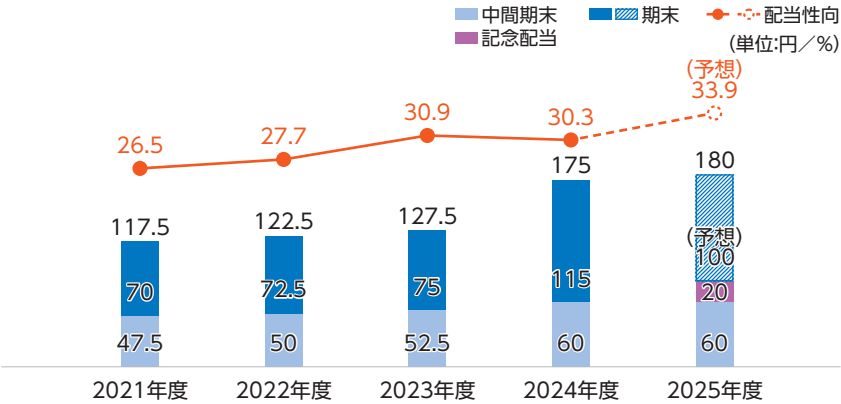
株式の状況

発行可能株式総数	19,107,600株
発行済株式の総数	4,776,900株
株主数	3,581名

株主構成



1株当たり配当金／配当性向



(注) 2025年度中間期末配当金の内訳 普通配当60円、記念配当20円



会社の概況 (2025年9月30日現在)

会社概要

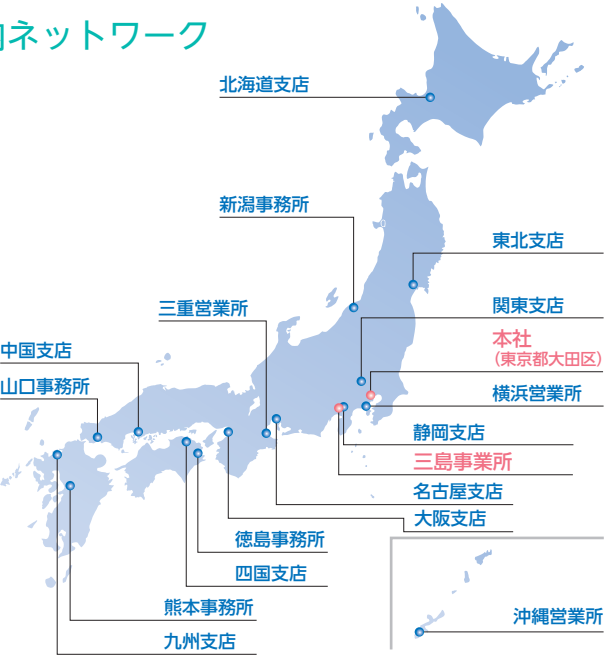
商号	株式会社 電業社機械製作所 (DMW CORPORATION)
所在地	東京都大田区大森北一丁目5番1号 〒143-8558 TEL 03 (3298) 5115
資本金	810,000千円
グループ従業員数	704名 (うち契約社員99名、パートタイマー45名)

取締役及び執行役員

代表取締役社長 最高執行役員社長	彦坂典男
取締役 常務執行役員	稲垣晃
取締役 常務執行役員	青山匡志
取締役 上席執行役員	原広志
社外取締役	杉井守
社外取締役	阿部泰光
取締役 (常勤監査等委員)	前田治郎
社外取締役 (監査等委員)	山本英男
社外取締役 (監査等委員)	市原美紀
執行役員	石澤勇人
執行役員	長尾裕治
執行役員	笹川博
執行役員	柚木孝洋
執行役員	坂根寧
執行役員	勝又一樹
執行役員	小野田敦雄

ネットワーク

国内ネットワーク



国内子会社

- 電業社工事株式会社 (本社：静岡県三島市)
- 株式会社エコアドバンス (本社：静岡県三島市)

海外ネットワーク

海外拠点

- 中東支店 (アラブ首長国連邦 ドバイ首長国)
- シンガポール支店
- 大連事務所 (中国)

海外子会社

- DMWインド社 (本社／工場：プネ)

株主メモ

- ・事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- ・期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- ・中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- ・定時株主総会 毎年6月開催
- ・株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電 話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- ・上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場
- ・公告の方法 電子公告により当社WEBサイトに掲載
(ただし、電子公告によることができない事
故、その他やむを得ない事由が生じたとき
は、日本経済新聞に公告いたします。)

(各種手続き先)

1. 株式に関する各種手続き(住所・氏名の変更、配当金振込口座の指定・変更、単元未満株式の買取請求等)につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
2. 株券電子化に伴う証券会社等の口座への振替手続きがお済みでない株式(特別口座に記録された株式)に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 銀行取扱い期間終了後の未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 株式会社 電業社機械製作所

〒143-8558 東京都大田区大森北一丁目5番1号
TEL(03)3298-5115(代表)

ホームページのご案内

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「IR情報」をご参照ください。

当社ホームページ <https://www.dmw.co.jp/>



▲TOPページ



森林に配慮して適切に管理された森林
認証紙を使用しています。



環境に配慮した植物インキを使用しています。